

26PB-am035

南関東におけるインフルエンザ感染パターンと「A型/B型」の流行との関係
～薬局データを用いた検討～

○福岡 勝志¹, 西田 志穂¹, 齋藤 充生², 林 譲², 矢島 毅彦³ (¹日本調剤, ²帝京平成大, ³ヘルスヴィジランス研)

【目的】我々は薬局で応需した処方せんデータを用いて、インフルエンザの感染パターンがシーズンによって異なることを報告してきた。既報¹⁾によると、2010年のシーズンでは感染ピークが二峰性を示したのに対して、2012年では単峰性であった。インフルエンザには「A」や「B」などの型が存在し、それぞれの流行時期のずれがこの感染パターンの違いを形成している可能性がある。そこで今回、薬歴データを用いて、インフルエンザの型別感染パターンの解析を行った。【方法】2010.9～2011.8および2012.9～2013.8の両シーズンにおいて、南関東地区に存在する日本調剤の薬局に来局した抗インフルエンザ薬が処方された患者を対象とした。薬歴にインフルエンザの型(A型/B型)の記載がある患者を抽出し、感染者数の時系列とA/B型別の時系列をグラフ化した。【結果】解析対象は2010年シーズンが2,407件、2012年が4,211件であった。2010年シーズンにおけるインフルエンザ感染パターンは二峰性(第1ピーク:1月24日、第2ピーク:3月9日)を示し、2012年は単峰性(ピーク:1月23日)であった。インフルエンザの型別では、2010年シーズンはA型インフルエンザの流行が先に起こった後にB型の流行が発生し、二峰性の感染パターンを示した。一方、2012年シーズンにおいては、A型の流行のみでB型の感染者数は少なく、B型の流行ピークは観察できなかった。【考察】感染パターンが二峰性を示した2010年シーズンは、最初のピークがインフルエンザA型、次のピークがB型のピークと重なっていた。このことから、インフルエンザの感染パターンは、インフルエンザの型毎の流行に影響を受けることが示唆された。

¹⁾ 西田ら, 第58回日本薬学会関東支部大会 P-216, 2014